

外国人幼児等の受入れに関する研修 2 - 4 園内研修実施ガイド

テーマ別研修 多文化共生の学級経営

- ◎園内研修の時間や優先して取り上げたい事柄等、各園の実情に合わせて進め方を工夫してください。
- ◎動画を全部見てから協議をしても結構ですし、途中で止めて参加者にワークシートに記入してもらい、協議の時間をもってから次に進めてもよいでしょう。
- ◎参加者の発言内容に即して気付きを引き出すように問いかけてください。その際、動画で学んだことと関連付けるような言葉を使うと、参加者の気付きが深まり、保育に反映しやすくなると思います。

本研修の概要と協議の進め方

1 外国人幼児等が在籍する学級の幼児と保育者の現状

動画では、外国人幼児等を受け入れている学級の幼児と保育者によく見られる戸惑いや育ちに関する現状について学びます。

協議では、外国人幼児等の様子を問いかけ、例えば「言葉は発しないけれど、分かってはいるみたい」など幼児の思いに関する発言があったら、「どういう姿から、分かっていると感じたの？」など、保育者の気付きを引き出す問いかけをしましょう。また、グラフの質問項目やその数値を見て気付いたことを話し合い、保育者が日頃実践していることや、悩みや不安を感じていることを発言しやすいように進めます。それにより自分では思いつかなかった工夫や学級の幼児の育ちに気付くことにつながります。

2 互いを受け止め合う学級集団の育ち

動画では、外国人幼児等も他の学級の幼児も、それぞれが自分を表現し、多様な関わりを通して育っていく学級集団について学びます。

協議では、テキストに掲載している 5 つの事例から、自園の実態に照らして取り上げたい事例を選び話し合しましょう。話し合いの中で保育者は、幼児の興味・関心の深まり、関わりの中で生まれる仲間への親しみ、自分の価値観と相手の価値観の違いなど幼児が漠然と感じている姿に気付いていくと思います。そうした保育者の気付きに関する発言を取り上げ、意識化するようにリードし、保育者の「気付く力」が求められていることにも言及できるとよいと思います。

3 幼児が言葉を習得する過程と保育者の援助の在り方

動画では、外国人幼児等が、周囲の様子から段々と言葉の意味を感じ取り日本語を習得していく過程と保育者の援助について学びます。

協議では、覚え始めた日本語の習得をどのように支えていくかを考えます。動画で示している「保育者の援助の在り方」を参考に、これまでの実践やその結果気付いたこと、今後やってみみたいことなどについて報告し合ってください。参加者が質問したり経験を伝え合ったりする中で、援助の在り方について理解を深め、保育のヒントにするとよいと思います。

4 多文化共生の学級経営

動画では、自園の保育の実際について振り返り、多文化共生の学級経営・園運営について学びます。

協議では、多文化共生の視点から幼児や学級集団の育ちを捉え、園全体で学級経営をどのように支えるかについて考えます。動画で示している「自園の多文化共生に向かう状況を捉えるための視点」や、「多文化共生の学級経営を目指す基本的な考え方」に照らして、園全体の多文化共生の風土がどの程度生まれているかについて共有することによって、今後の方向性を見通すことができます。

研修の振り返り

最後に、多面的に考える力を養うための事例を示しています。ほほえましい事例のように見えますが、その中で子供たちが何を学んでいるかに着目し、よさの面だけでなく、課題が生まれる可能性もあることに保育者が気付き、意識できるように協議を進めていただきたいと思います。

園内研修進行シート（ファシリテーター用）

A ファシリテーションのヒント（問いかけ例）	B 協議内容の概要・ファシリテーターの感想等
<p>1 外国人幼児等が在籍する学級の幼児と保育者の現状</p> <p>Q1 貴方の園（学級）の外国人幼児等は、どのようなことに困っていますか？</p> <p>Q2 スライド1-4の「学級の幼児の育ち」のグラフから、どのようなことに気付きましたか？</p> <p>Q3 貴方の園（学級）では、どのような幼児の育ちの姿が見られますか？</p>	
<p>○率直に意見を言いやすくするために、まず園（自分の学級）に在籍する外国人幼児のことを話すようにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人幼児等の入園当初に貴方が心配したこと（「気になった姿」）はどのようなことでしたか？その理由は、どのようなことでしたか？ ・「学級の幼児の育ち」について1-4のスライドのグラフからどのような気付きがありましたか？ ・貴方の園では、どのような学級の育ちが見られますか？ ・幼児同士の関わりはどんな様子ですか？ <p style="text-align: right;">など</p>	
<p>2 互いを受け止め合う学級集団の育ち</p> <p>Q4 事例○について、感じたこと気付いたことはどのようなことですか？（選んだ事例について）</p>	
<p>○テキストに各事例の「ファシリテーションのポイント」を掲載していますので、話し合いの参考にしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例の中で、幼児が異文化について感じたり気付いたりしていることや、幼児が受け止め合っていることはどのようなことだと思う？ ・これと似たような経験がある人は、いる？ ・そのとき、先生は何を大切にしたいと思った？ <p style="text-align: right;">など</p>	

3 幼児が言葉を習得する過程と保育者の援助の在り方

Q5 幼児一人一人の育ちに応じた援助について大切だと思うことはどのようなことですか。

○スライド3-2に示す援助の在り方を参考に、自身の保育を振り返りながら話してもらおうと思います。話をすることで、外国人幼児等の育ちを確かめながら関わることの大切さに関心が向くように話を進めるとよいでしょう。

- ・具体的には、どんな場面でどんな言葉にしたの？
- ・他の保育者の姿を見て、自分も真似たいと思ったことは？
- ・保育の中に取り入れてみて、言葉への興味が広がったと思われることがあったら紹介して！

など

4 多文化共生の学級経営

Q6 多文化共生の風土がどの程度生まれているか、園全体や学級経営の様子を振り返り、今後どのようなことに取り組みたいかを考えてみましょう。

○学んだことを総合的に捉えて「自園の多文化共生に向かう状況」を皆で確認し、園内研修のまとめとして、今後目指す方向を共有するとよいと思います。

- ・①～④の中で、これに該当すると思うことはどんなことがありますか？
どうしてそう思ったの？
- ・これは、もう少し頑張りたいと思うことは？
- ・自分だったらこうしたいと思うことは？

など

研修の振り返り — 課題が生まれる可能性

Q7 なぜ、園は「複雑な思い」をもったのか考えてみましょう。

- ・ F児と周囲の幼児たちは、どのような思いをもっているか考えてみましょう。

○研修の振り返りに提示している事例を読んで、

- ・生まれる可能性がある課題とは、どのようなことが考えられそうですか？
- ・なぜ、園は「複雑な思い」をもったのかしら？

○保育者一人一人が考えることも有効ですので、参加者に記述してもらい、後日に皆で共有してもよいと思います。

